



セイタカシギ科の鳥は、中型で足が長い水辺の鳥で、嘴がまっすぐなもの、上にそったもの、下に曲がったものなどが見られます。体の色は黒と白が多いようです。世界の温帯に7種類分布。日本にはセイタカシギとソリハシセイタカシギの2種類が記録されています。

▼主な特徴

大きさはキジバト位で約37cm。嘴は細長く、ピンク色の長い足。東京湾や愛知などで繁殖し、一年中見られます。他の所では、旅鳥、または冬鳥などで大変人気が高く、シギ類の名物として多くの人から親しまれています。背と翼は黒（雄は青黒色、雌は黒褐

里山に育む生きものたち

28 セイタカシギ

(チドリ目 セイタカシギ科)

学名 Himantopus himantopus

英名 Black-winged Stilt

写真・文 / 山口 萬壽美

色)、体下面は白く、飛翔時に白い背、腰、尾が目立ちます。頭部は真っ白のもの、様々な形の黒斑が入るものと個体差が大きい。鳴き声はキツ、キツ、またはピヨツ、ピヨツと鳴きます。

▼分布

ユーラシア中部、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリア、北米中部、南米など広く繁殖しています。生息場所として、埋立地の水たまり、水田、湿地、内湾の干潟などを好みます。干拓地が広大な東京湾や愛知県などではシギ、チドリが多く見られています。特に、東京湾の行徳海岸や谷津干潟などの繁殖状況は有名で、多くの方々が

この鳥との出会いを期待してバードウォッチングに出かけるようです。

この種の中に、類似種アオアシシギと出会うことがあります。その鳥は嘴が太くやや上に反り、やや短い黄緑色の足が特徴です。

▼観察メモ

酒沼周辺で二つの思い出があります。その一つは、昭和35年頃、宮ヶ崎地区の水田がまだ干拓されていない頃の夕方、酒沼の上流でプランクトン採集をしていますと、水際からピヨツ、ピヨツという声が聞こえてきました。最初はどんな鳥の声か分かりませんでしたが、何度か聞き、飛び立つ姿をみて正体はセイタカシギと確認しました。二つ目は、平成10年代、酒沼下流域の大洗町神山地区の水田で改修工事が行われた際、約100㎡の干拓地が造成されました。やがてその場所は、立派なふゆみず田んぼとして残りました。この年の冬から数年間、マガン約30羽、セイタカシギ8羽の他、多くのシギチドリ類が飛来し、バードウォッチャーを楽しませてくれました。

編集・発行 / 茨城県総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年6月30日現在)
◆総人口 34,004人 (-15)、男 17,042人 (-20)、女 16,962人 (+5) ◆世帯数 12,711世帯 (+10)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています